

## 「<sup>い</sup>活きたお金」の使い方

広島県・広島大学附属東雲中学校 2年 野村 綾

2018年7月6日、この日は朝から大雨警報が発令されており、学校は臨時休校、私は自宅にいました。午後3時半頃、私の住む地域に避難勧告が発令されました。私の住む地域の側には大きな川があり、私の部屋からも川が見えます。朝から何度も川の水量を見ていましたが、避難勧告が出た時は、少し小雨になっていた時だったように覚えています。川の水量もまだ氾濫する程ではありませんでした。午後4時半、地域の方に、

「いつでも避難出来るように荷物だけは用意しておいてね。」

と言われました。防災グッズを確認し、その時に備えました。午後6時過ぎから雨の勢いがひどくなり、テレビをつけていても雨のたたきつける音が響いています。川の水量は変わっていないように見えたが、川の流れがものすごく速いのでドキドキしました。突然家の排水口から、ボコボコと水の音がし始め、母が慌てて対処をしに外に出ました。雨の勢いがひどくて、玄関を開けるのにもとても力が必要だったそうです。午後7時40分、<sup>つい</sup>遂に大雨特別警報が発令され、最大級の警戒が必要となりました。夕方から確実に2時間は今までにない大雨が降り続いていました。午後9時過ぎ、避難指示発令。川の水位は辺りが真っ暗で確認することは出来ませんでした。雨の勢いは少しおさまっていたのを覚えています。地域の人から連絡が来なかった所以我は自宅で次の日の朝を迎えることができました。翌朝テレビのニュースを見て驚きとショックでいっぱいでした。広島の街が土砂で茶色に染まり、道路はなくなっていました。友達のお母さんから連絡があり、今から被害の大きかった知り合いの家に行くと……。その後、連日ニュースで被害の大きさと被災地の映像を見て遂に私は決心しました。夏休みに入ったらボランティアへ行こう、と。情報を沢山入手し、7月22日の日曜日に父と参加することに決めました。ボランティア前日、家族でホームセンターへ行き、自分を守る為<sup>ため</sup>、現地の方達に迷惑をかけな

い為に全ての準備をしました。母がレジで会計をすませた後に、  
「ありがとう。」

と言うと、母は、  
「これは活きたお金。この猛暑の中でボランティアへ行こうと思うその気持ちは、  
お金にかえられないすばらしいことだと思う。」

と言ってくれました。その時、「活きたお金」という言葉を知りました。ボランティア活動は想像以上に大変で、私は17人グループの中で活動し、バケツリレー方式で土砂を撤去しました。連日35度を超える猛暑が続いていましたが、現場の悲惨さや被災地の方々の<sup>つら</sup>辛さや悲しさを見ると自然と体が動きます。活動を通し、被災地の方々やボランティアスタッフの温かさも知りました。今、広島では至る所に募金箱が設置され、西日本豪雨災害復興に取り組まれています。ふるさと納税によって直接、被災地へ募金として届けられることも学びました。これも活きたお金だと私は思います。広島市に設置されている募金箱は満杯です。全国から届けられる募金も全て助けたいという思いからです。今過ごしている当たり前の日常がどれほど幸せだったのか、水道や電気を自由に使えることがどれほどありがたいことだったのかを知ると同時に、ボランティア活動をして知った被災地の方々の苦しみや悲しみを、決して忘れずにいようと思いました。

被災地の方からかけてもらった「ありがとう」という声に対して、次は募金という形で私は、  
「こちらこそです。どうか体には気をつけて下さい。」  
という気持ちをお返ししたいです。

「活きたお金」という意味をよく理解して、これから先、その「活きたお金」を上手に使いこなせる大人になりたいです。

